

# 持続可能な公共交通の実現に向けて

～令和7年度乗合タクシー再編業務～

令和7年8月8日

# 大仙市の交通システム

- 近隣市町を結ぶ幹線交通として路線バスを維持し、支線としてコミュニティバスや循環バス、乗合タクシー等を市が実施主体となって運行している。



## ● 路線バス

羽後交通が運行する路線バスで、他市町と大仙市を結ぶ基幹路線や、市域内を運行する路線がある。

【運行路線】・横手大曲線 ・大曲角館線 ・角館六郷線 ・川西線 ・千屋線 ・稲沢線  
・淀川線 ・船岡線 ・峰吉川線 ・イオンイーストモール線



## ● コミュニティバス

羽後交通が運行する一般路線バスの内、存続が困難となった3路線を市営化することで運行を維持している。

【運行路線】・長信田線 ・杉山田線 ・南外線



## ● 循環バス

市中心市街地を循環運行することで、まちなかの移動を支援し、中心市街地の活性化を担うバス。

【運行地域】大曲駅、大仙市役所周辺



## ● 乗合タクシー

路線バス廃止に伴う代替交通や交通空白地域の解消を目的に予約制により、停留所と地域の中心地の間を運行するタクシー。※神岡、西仙北、南外地域はドアツードア運行（自宅付近で乗降可能）

【運行路線】市内全域30路線



## ● 市民バス（自家用有償旅客運送）

市内の交通空白地域において、市が実施主体となって運行する予約専用のバス。

【運行地域】・西仙北大沢郷地区～刈和野地区 ・南外外小友地区～南外支所



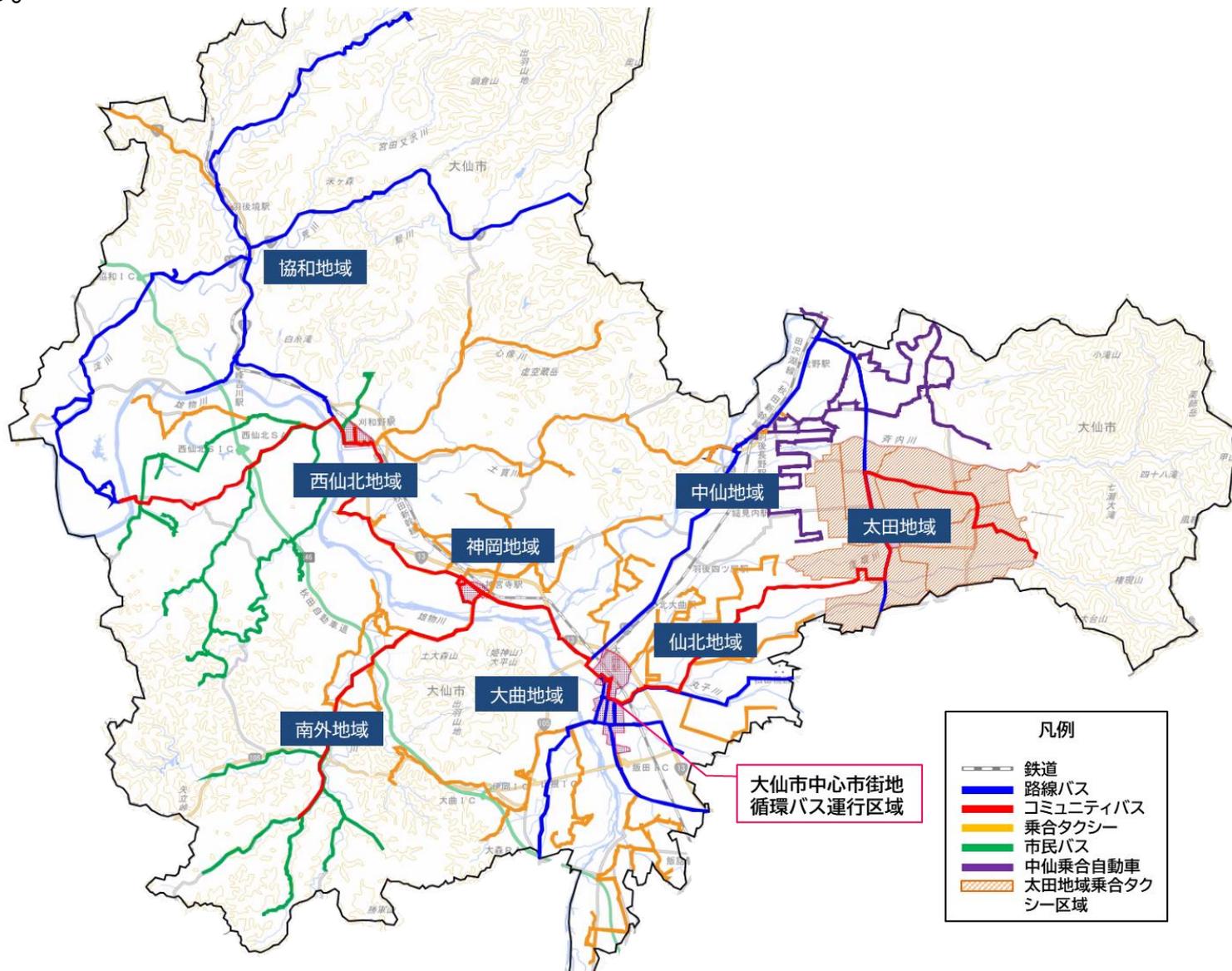
## ● 中仙乗合自動車

中仙タクシー（資）が独自に運行する乗合タクシー。

【運行地域】清水、豊川、豊岡地区～中仙地域中心地、仙北市立角館総合病院

# 大仙市の交通ネットワーク

- 複数回の乗り継ぎを要する場合もあるが、各地域間の移動が可能な交通ネットワークが構築されている。



# 本市の公共交通が抱える課題

## バスの現状と課題

- 利用者の減少により赤字が拡大し、運転手不足も相まって減便や路線廃止が進行している。
- 利便性の低下が、さらなる利用者減少を招くという負のスパイラルに陥っている。
- 人件費や燃料費の高騰等により、運行経費が増加している。

## 乗合タクシーの現状と課題

- 停留所が固定される運行では、自宅から停留所まで距離がある利用者にとってアクセスが不便であり利用しづらい。
- 一部の特定利用者の繰り返し利用が多く、新規利用者の獲得が難しい。
- 地域内に複数の路線が網目状に存在し、それぞれに車両・運転手・経費が必要となっているため、運行効率が低い。
- 路線ごとに需要が分散し、単独利用が多いことから、乗り合いが成立しにくい。
- 乗合率が低いことから、県の補助対象とならない路線が大半となっており、財政的な持続性に課題を抱えている。
- 各事業者で運転手が不足しており、今後安定的な運行体制の確保が困難。



**広域的・幹線的なバス路線は維持しつつも、地域内の支線については、最小限の人員と車両で構築できる、利便性の高いコンパクトな交通システムの整備が必要**

# 今後のスケジュール

## ステップ1：乗合タクシーの路線再編とAIオンデマンド交通システムの先行導入

乗合タクシーは全地域で30路線運行しており、地域内の移動手段としての役割を担っている。先行的に乗合タクシーにおいて、AIオンデマンド配車システムを活用した路線再編を行い、実施効果を検証する。

- **令和7年度**

令和8年度の実証運行に向けた運行計画の策定（公募型プロポーザル方式にて業者選定予定）

- ・ 交通事業者へのヒアリング、住民意見交換会の開催
- ・ 運行計画（素案）の作成

- **令和8年度**

太田地域乗合タクシーの路線再編及びAIオンデマンド配車システムの先行導入

- ・ 策定した運行計画に基づき、太田地域にて実証運行を開始

## ステップ2：他地域や他交通システムへの展開を検討

- **令和9年度以降**

令和8年度の実証運行の評価・検証を踏まえ、同様の課題を抱える他の乗合タクシー路線や、他の交通システム（コミュニティバス・市民バス）への展開を段階的に検討。

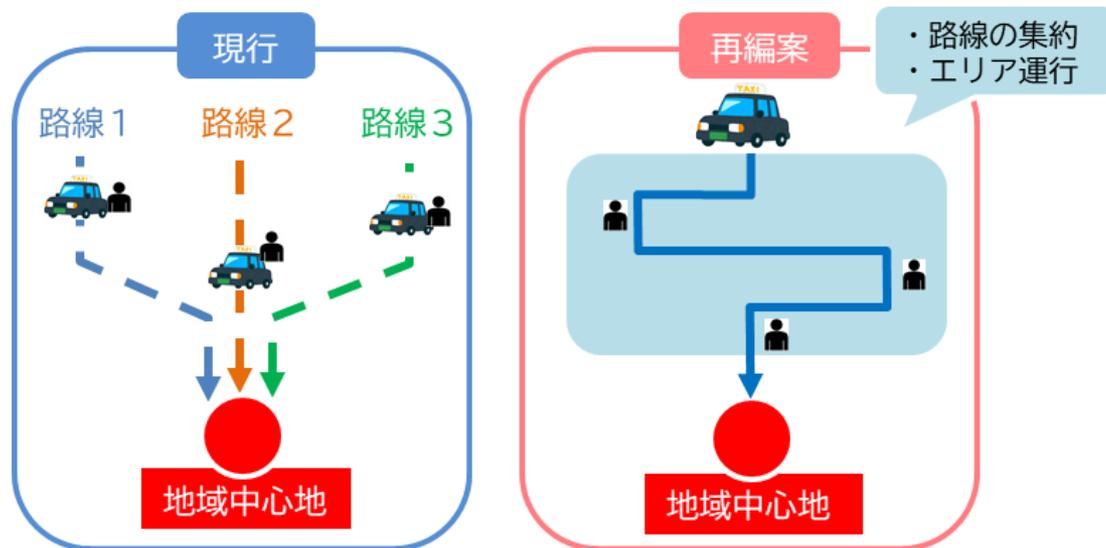
# 乗合タクシーの路線再編の方向性

## 方向性1：路線の集約とエリア運行

- 地域内を運行する複数の路線を一体的に再編・集約し、可能な限り1台の車両でカバー可能な運行体系へ見直す。
- 一定区域内で柔軟に対応できる「エリア運行」方式へと移行することで、ドアツードアに近い形で利便性の高い運行を実現する。

## 方向性2：A I 技術の活用

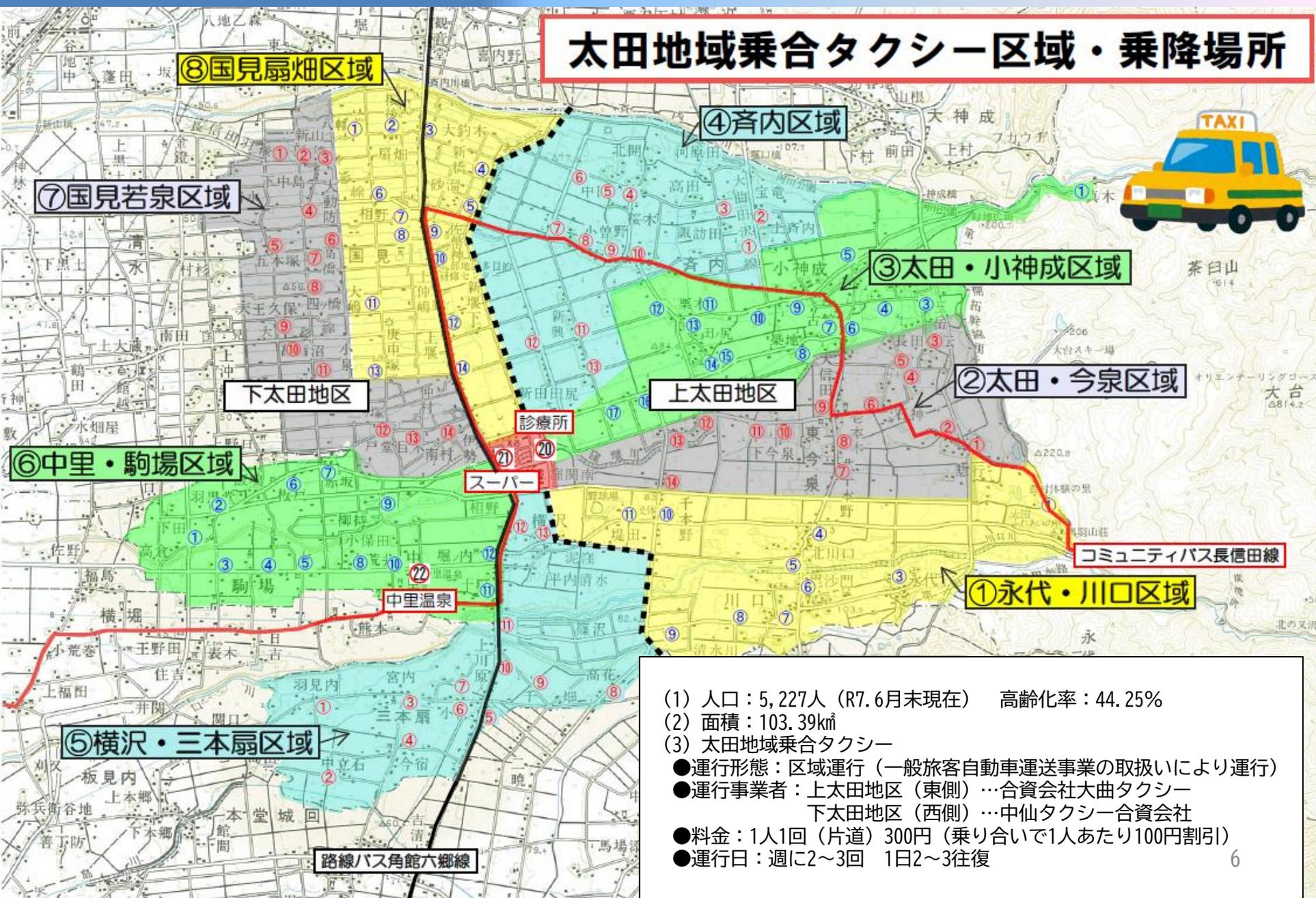
- AI技術を活用した配車システムを導入することでルート最適化を図る。



図：再編イメージ図

# 太田地域について

## 太田地域乗合タクシー区域・乗降場所



- (1) 人口：5,227人 (R7.6月末現在) 高齢化率：44.25%
- (2) 面積：103.39km<sup>2</sup>
- (3) 太田地域乗合タクシー
  - 運行形態：区域運行（一般旅客自動車運送事業の取扱いにより運行）
  - 運行事業者：上太田地区（東側）…合資会社大曲タクシー  
下太田地区（西側）…中仙タクシー合資会社
  - 料金：1人1回（片道）300円（乗り合いで1人あたり100円割引）
  - 運行日：週に2～3回 1日2～3往復

# 再編により期待される効果

## 1. 利便性の向上と新規利用者の獲得

- ドアツードア型に近い運行形態により、移動負担の軽減。
- 高齢者や交通弱者でも利用しやすい仕組みとなり、新規利用者の増加が見込める。
- バス停や駅などの交通結節点へのアクセス向上で、乗り継ぎ利便性が高まる。
- 他の公共交通機関の利用促進にもつながる。

## 2. 運行効率の向上と持続可能性

- 分散していた利用ニーズを集約することで、最小限の車両・人員・経費での運行が可能となる。
- 利用者が集約されることで、乗合率（乗車密度）が向上し、県の補助要件を満たす路線となる可能性が高まる。
- 運転手不足が続く中でも、より持続可能な運行体制の構築が見込まれる。

## 3. 交通システムの再編モデル

- 太田地域における乗合タクシーの路線再編をモデルとし、地域特性や移動ニーズを踏まえた効率的かつ利便性の高い交通システムの構築を図るとともに、その成果や課題を踏まえ、市全体の公共交通網の見直し・再編を段階的に進めていく。